

## 中学生の進路社会化に関する研究(II)

### ——職業的進路態度成熟度の影響要因を中心にして——

愛知教育大学職業指導教室 坂 柳 恒 夫  
愛知教育大学職業指導教室 竹 内 登規夫  
(昭和58年12月26日受理)

#### はじめに

進路指導とは、「個々の生徒の発達段階に応じて、その進路発達課題の達成を援助する教育活動である<sup>(1)</sup>」といわれている。したがって、これを実践的に展開していくためには、生徒の各発達段階に応じた進路発達課題が具体的に設定されなければならない。進路発達課題は、アプリアリに設定されるべきものではなく、現実の生徒の進路成熟(Career Maturity)の実態を踏まえたものでなければならない。要するに、生徒の各発達段階に即した進路発達段階が具体的に設定されるためには、まず、生徒の進路成熟の実態を把握し、それを検討・吟味することから始めなければならない。

個人の進路成熟は、個人のパーソナリティその他の内的要因によって影響されるのみでなく、個人を取り巻く周囲の社会的環境によっても、また、その時代の社会的・経済的・政治的状况によっても影響されているものと考えられる。進路成熟の過程を、このような影響要因との関連で捉えるのが、進路社会化(Career Socialization)の研究である<sup>(2)</sup>。総体としての社会化は、人間生活のあらゆる側面にわたる過程であるが、その中にあって、進路社会化は、政治的社会化、道徳的社会化、経済的社会化、性的社会化などと並び、「進路」という側面にスポットをあてた個別的社会化である。

#### 研究の目的

これまでに進路成熟を測定・評価する各種の調査・検査類が開発されているが、筆者らも、進路

成熟の態度的領域を測定するための進路成熟態度尺度(Career Maturity Attitude Scale: 略称CMAS-2)の作成を行った<sup>(3)</sup>。

本研究の目的は、このCMAS-2のうち、職業的進路態度尺度を用いて、中学生の職業的進路態度成熟度の様相とその影響(促進, 抑制)要因を学年別に検討することである。

#### 研究の方法

##### 1. 調査の対象・時期

調査の対象は、愛知県中部都市部の公立中学校の生徒、総計625名である(ただし、有効回答票のみ)。

〈表1〉は、調査対象人数を、性別・学年別に示したものである。

〈表1〉 調査対象人数(性別・学年別)

性	学 年	1 年	8 年	計
男 子		1 7 6	1 5 8	3 3 4
女 子		1 3 0	1 6 1	2 9 1
計		3 0 6	3 1 9	6 2 5

調査は、昭和58年6月下旬~7月上旬に実施した。

##### 2. 職業的進路態度尺度の構成とその測定

職業的進路態度尺度は、次の3つの下位尺度(各6項目)により構成されている。

(1) 職業的進路自律度(Occupational Career Autonomy: 略称OCA)……〈表2〉の項目番号①~⑥

(2) 職業的進路計画度(Occupational Career Planning: 略称OCP)……〈表2〉の項目番号

〈表2〉 職業的進路態度の成熟度測定のための質問項目

	職業の選択について、次のような18の意見があります。それぞれについて(ア)(イ)(ウ)3つのうち最も自分の気持ちにあてはまるものの記号を1つ○で囲んで下さい。すべての意見について答えて下さい。	
OCA 1	①将来の職業は	(ア) 親や先生など他の人のすすめる職業に決める (イ) できるかぎり自分で考えて決めたい (ウ) 自分でよく考えて決める
OCA 2	②将来の職業を決めたならば その後のことは	(ア) 自分で責任をもてない (イ) できるかぎり自分で責任をもつ (ウ) 自分ですべて責任をもつ
OCA 3	③将来の職業につくための 準備は	(ア) 親や先生など他の人に言われないとできない (イ) 自分からすすんでするつもりだ (ウ) 自分からすすんでする
OCA 4	④つきたい職業の内容や どうしたらつけるかなどは	(ア) 自分で調べられない (イ) できるかぎり自分で調べる (ウ) 自分ですべて調べる
OCA 5	⑤将来の職業は	(ア) 自分で責任をもって決められない (イ) できるかぎり自分で責任をもって決めるつもりだ (ウ) 自分で責任をもって決める
OCA 6	⑥将来の職業は	(ア) 自分にあっていても友達と同じ職業に決め (イ) できるかぎり自分にあつた職業に決めたい (ウ) 自分にあつた職業に決める
OCP 1	⑦職業につくための 準備は	(ア) 就職の直前になってすればよいことで今はしていない (イ) しなければならぬと思っているがまだしていない (ウ) 計画をたててしている
OCP 2	⑧今つきたいと 思っている職業は	(ア) ない (イ) 思いつきであるのでしばらくするとかわるだろう (ウ) よく考えたうえなので今後もかわらない
OCP 3	⑨つきたいと思う職業は	(ア) まだ考えていない (イ) はっきりと決まっていない (ウ) すでに決まっている
OCP 4	⑩職業につくまでの計画は	(ア) まったくたてていない (イ) たてようと思っているがまだたてていない (ウ) すでにたてている
OCP 5	⑪今つきたいと思っている職業は	(ア) ない (イ) 進学のことと別に決めている (ウ) 進学のことと考え合わせて決めている
OCP 6	⑫職場生活の過ごし方について	(ア) まったく考えていない (イ) まだはっきりと考えていない (ウ) はっきりと考えている
OCC 1	⑬世の中にどんな職業や 仕事があるのか	(ア) 知りたいと思わない (イ) すこしは知りたい (ウ) とても知りたい
OCC 2	⑭将来の職業については	(ア) 考えたこともない (イ) それほど興味をもっていない (ウ) とても興味をもっている
OCC 3	⑮つきたいと思っている職業では どのような心構えや態度が必要なのか	(ア) 考えたこともない (イ) それほど気にならない (ウ) とても気になる
OCC 4	⑯つきたいと思っている 職業について	(ア) 人にたずねたり調べてみたいと思わない (イ) 人にたずねたり調べてみたいと思う (ウ) 人にたずねたり調べたことがある
OCC 5	⑰何のために職業につくのか	(ア) 考えたこともない (イ) すこしは考えたことがある (ウ) しんげんに考えたことがある
OCC 6	⑱つきたいと思っている職業では どのような能力が必要なのか	(ア) 考えたこともない (イ) それほど気にならない (ウ) とても気になる

〈表3〉 下位尺度間の相関係数

⑦～⑫

(3) 職業的進路関心度 (Occupational Career Concern: 略称 OCC) …… 〈表2〉の項目番号

⑬～⑯

採点は、各項目とも回答(ア)には「0点」、回答(イ)には「1点」、回答(ウ)には「2点」を与えた(〈表2〉参照のこと)。したがって、各下位尺度の総合得点の理論分布は、0～12となっている。

3. 分析に用いる要因(説明変数)の選択

分析に用いる要因として、次のような4群24要因(アイテム)を選択した。

(1) 心理的要因群(7項目)……希望学歴、希望職業、勉学態度、労働観、親のしつけに対する認知など。

(2) デモグラフィック要因群(5項目)……親の職業・学歴など。

(3) 学業成績群(9項目)……9教科各々の学業成績の自己評価。

(4) 生活時間群(3項目)……手伝いの程度、テレビの視聴時間など。

4. 分析の技法

本研究では、職業的進路態度成熟度を被説明変数として、上記の要因群を説明変数として、影響要因の分析を行った。説明変数の多くは質的データであり、被説明変数は量的データであるため、数量化理論第Ⅰ類を分析の技法として用いた。

なお、調査結果の統計処理は、名古屋大学大型計算機センターのFACOM M-200を利用した。

結果と考察

1. 下位尺度間の相関関係

はじめに、職業的進路態度の成熟度を測定するために設定した職業的進路自律度(OCA)、職業的進路計画度(OCP)、職業的進路関心度(OCC)の各々の相互連関性を、〈表3〉によって検討する。

OCAとOCPの間では、男女いずれも、1年生より3年生の相関係数が高くなっている。このことは、学年の進行につれて、両者の相互連関性が強くなっていることを示している。特に、女子の方にその傾向が著しくなっている。

これに対して、OCPとOCCの間では、男女

		OCA × OCP	OCP × OCC	OCA × OCC
男 子	1年	.2719	.5743	.2483
	3年	.3055	.4639	.3529
女 子	1年	.3028	.5896	.3940
	3年	.5322	.4793	.3240

ともに、学年の進行につれて、相関係数がやや低くなっている。このことは、OCPとOCCの側面の成熟が分化し、個別性を強めていることを示している。

また、OCAとOCCの間では、学年が進むのにつれて、男子の相関係数は高くなっているが、女子の相関係数はやや低くなっている。すなわち、男子では、相互連関性を強めているのに対し、女子では、それをやや弱めている。

全体的にみれば、1年生のOCPとOCCとの間(男子.5743、女子.5896)、3年生女子のOCAとOCPとの間(.5322)でやや高い数値がみられるものの、それ以外は、あまり高い数値ではなく、各々の側面の個別性・独立性が強いといえよう。

2. 職業的進路態度成熟度の様相

ここでは、職業的進路態度の様相(学年別推移)を、各下位尺度ごとにみていくことにする。

(1) 職業的進路自律度

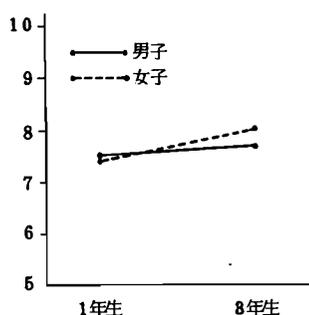
〈表4〉は、職業的進路自律度の成熟得点を、学年別・性別にまとめたものである。

〈表4〉 職業的進路自律度得点(M, SD)

	1年		3年		t検定の結果
	M	SD	M	SD	
男子	7.5	2.05	7.7	1.78	NS
女子	7.4	1.77	8.0	2.07	P<.05

また、〈図1〉は、〈表4〉を視覚化したものである。

この表および図から明らかなように、各学年とも職業的進路自律度の成熟には、性差が認められない。しかし、女子にあっては、1年生の得点より3年生の得点の方が高くなっており、学年間に



〈図1〉 職業的進路自律度得点

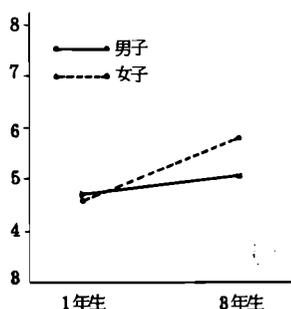
5%水準で有意差が認められる。すなわち、女子の職業的進路自律度は、1年生よりも3年生の方がより成熟していることを示すものである。なお、男子については、学年間で統計的な有意差が認められなかった。

(2) 職業的進路計画度

職業的進路計画度についても、職業的進路自律度の成熟得点を図表化したのと同様の観点から、〈表5〉、〈図2〉を示してみた。

〈表5〉 職業的進路計画度得点 (M, SD)

	1 年		3 年		t 検定 の結果
	M	SD	M	SD	
男子	4.7	2.96	5.1	2.97	NS
女子	4.6	2.78	5.8	2.85	P<.001



〈図2〉 職業的進路計画度得点

この側面の成熟は、中学1年生の段階では顕著な男女差は認められないが、中学3年生の段階では男女差がみられ ( $p < .05$ ), 男子よりも女子の方がかなり促進されている。また、成熟得点の学年間比較においても、男子では有意差がみられなかったが、女子では有意差がみられ、1年生に比

べ3年生の成熟得点が高くなっている。

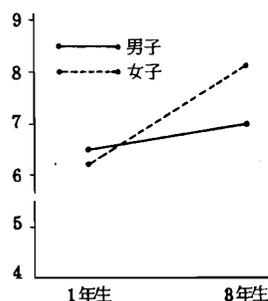
以上の結果から、男子に比べて女子の方が、この側面の成熟はより進んでいるといえよう。

(3) 職業的進路関心度

〈表6〉、〈図3〉は、職業的進路関心度の成熟得点の学年別推移の状況を示したものである。

〈表6〉 職業的進路関心度得点 (M, SD)

	1 年		3 年		t 検定 の結果
	M	SD	M	SD	
男子	6.5	2.66	7.0	2.68	P<.10
女子	6.2	2.54	8.1	2.60	P<.001



〈図3〉 職業的進路関心度得点

職業的進路計画度と同様、この側面の成熟は、1年生の段階では性差がみられないが、3年生の段階では性差がみられる。すなわち、3年生では、男子の得点よりも女子の得点が高くなっており、t検定の結果においても1%水準で有意差が認められる。男子に比べて女子の方が、この側面での成熟は急激であるといえよう。また、成熟得点の学年間比較では、男子の場合、1年生より3年生の方が高い傾向が認められるものの、女子の場合のような急激なもののみはみられない。

以下、調査結果をもとに、職業的進路態度の成熟度の様相を、下位尺度ごとにみてきたが、自律度、計画度、関心度の3側面いずれも、男子では成熟の高まりが顕著にみられないが、女子にあっては成熟の高まりが顕著にみられる。総じて、男子よりも女子の方が、職業的進路態度の成熟が進んでいるといえよう。

3. 職業的進路態度成熟度の影響要因

職業的進路態度成熟の影響要因を、その下位尺度ごと（職業的進路自律度、職業的進路計画度、職業的進路関心度）に検討する。つまり、ここでは職業的進路態度成熟への促進、抑制要因を明らかにすることをねらいとしており、偏相関係数の値が高い項目（第3位まで）をとりあげ、ベクトルを手がかりに各要因の作用の方向をみることにする。

また、ここでは男子と女子の別に検討をするが性差の比較よりも、むしろ学年差（1年生と3年生）による影響要因の違いを中心に考察を展開する。

(1) 職業的進路自律度への影響要因

〈男子〉

〈表7〉は、男子の職業的進路自律度への影響要因分析結果をまとめたものである。

〈表7〉 職業的進路自律度の影響要因分析結果 (男子)

群	アイテム	カテゴリー	1 年 生		3 年 生		
			ベクトル(x10 <sup>-3</sup> )	偏相関係数	ベクトル(x10 <sup>-3</sup> )	偏相関係数	
心	希望学歴	1中等学歴	-278	.1074	47	-.0205	
		2高等学歴	155	(19)	-21	(22)	
	希望職業	有 職	829	-.2397	22	-.0200	
		無 職	-562	(6)	-86	(28)	
	勉学態度	1職業型	-316	-.2584	888	-.2808	
		2興味型	-457	(4)	-6	(7)	
		3いよいよ型	-124		-21		
		4情性型	46		-89		
	理 的	個人的労働観(本人)	1社会的貢献	-181	-.1288	-180	-.1715
			2経 済	68	(16)	-6	(12)
3自己実現			220		280		
4社会的地位			-581		664		
理 的	個人的労働観(父)	1社会的貢献	618	-.2086	-525	-.1729	
		2経 済	-78	(9)	19	(11)	
		3自己実現	-289		112		
		4社会的地位	-644		446		
因	しつけ(父)	1きびしい	588	-.2864	826	-.8190	
		2ゆるい	-320	(7)	160	(8)	
		3あまい	605		-1286		
		4その他	-189	-.0754	-2	-.0674	
因	しつけ(母)	1きびしい	28	(22)	-89	(20)	
		2ゆるい	605		882		
		3あまい	-471	-.8884	-176	-.8268	
		4その他	385	(1)	805	(2)	
デモグラフィック	父の職業	1専 門	485		424		
		2専門・技術	-1394		926		
		3販売・サービス	346		-210		
		4その他	-241		-492		
	母の職業	1専 門	1750		-8918		
		2専門・技術	782		1250		
		3販売・サービス	-100	-.0429	-14	-.0057	
		4その他	51	(24)	5	(24)	
学歴階層	父の学歴階層	1初等学歴	882	-.8251	18	-.1278	
		2中等学歴	-140	(2)	-78	(10)	
		3高等学歴	-1148		-140		
		4その他	1717		788		
学歴階層	母の学歴階層	1初等学歴	-602	-.2001	-226	-.2671	
		2中等学歴	808	(10)	86	(6)	
		3高等学歴	204		689		
		4その他	-170		-1665		
出生順位	1独生子	1独 子	-308	-.0845	-1826	-.8078	
		2長 子	-56	(21)	-174	(4)	
		3中間子(末子)	191		729		
学 科	国 語	1上 位	-485	-.1227	214	-.1584	
		2中 位	151	(17)	199	(14)	
		3下 位	87		-454		
	数 学	1上 位	682	-.1507	-100	-.1106	
		2中 位	60	(14)	-156	(17)	
		3下 位	-822		826		
	社 会	1上 位	648	-.2496	91	-.0880	
		2中 位	297	(5)	-11	(21)	
		3下 位	-821		-111		
	理 科	1上 位	-867	-.2788	-143	-.1472	
		2中 位	228	(8)	242	(15)	
		3下 位	1186		-298		

英 語	1上 位	-168	.0709	205	-.0926
	2中 位	242	(28)	-189	(19)
	3下 位	-292		44	
音 楽	1上 位	-292	-.1196	-480	-.1699
	2中 位	281	(18)	246	(18)
	3下 位	-170		-285	
保 健 体 育	1上 位	460	-.1678	289	-.1787
	2中 位	-814	(18)	155	(10)
	3下 位	59		-58	
美 術	1上 位	914	-.1711	791	-.2821
	2中 位	38	(12)	-855	(5)
	3下 位	-299		480	
技 術 家 庭	1上 位	-198	-.1985	-999	-.2220
	2中 位	-480	(11)	66	(8)
	3下 位	882		279	
生 活 時 間	テレビ	110~1時間	-36	-1441	-597
		21~2時間	321	(15)	190
		32時間以上	-429		89
ラ ジ オ	110~1時間	-59	-.0922	71	-.0987
	21~2時間	-116	(20)	-7	(18)
	32時間以上	846		-860	
手 伝 い	1よくする	812	2244	1417	-.8882
	2ときどきする	-118	(8)	180	(1)
	3ほとんどしない	-282		-288	
重 相 関 係 数			-.6816		-.6871

(注) ( )内の数値は影響力の順位

1年生では、職業的進路自律度に対する規定力の第1位の要因は、「父の職業」で「保安」、「管理」、「労務」、「専門・技術」の職業が促進する方向に、「販売・サービス」、「事務」、「自営」が抑制する方向に作用している。なお、「保安」がベクトル値1750と非常に大きな数値になっているが、これは集計対象者が少ないため、若干の回答の偏りがこうした大きな数値をもたらしている。従って以下の考察においては「保安」については省略することにする。規定力の第2位は、「父の学歴」で「初等学歴」、「中等学歴」が、この側面の成熟を高めているのに対し、「高等学歴」が低める働きをしている。次いで規定力の第3位は、学業成績のうちの「理科」で、この科目の成績が低いものほど成熟を高める結果になっているが、このような結果は仮説とは反するものであり、この結果のみでは、何故こうしたことが生じるのか原因は定かでない。

3年生の結果を同表をもとにしてみると、職業的進路自律度の規定要因としては、「手伝い」が最も強く影響しており、手伝いをよくするものほどこの側面の成熟が高まっている。これに次いで、「父の職業」が強い影響要因となっており、「管理」、「販売・サービス」、「専門・技術」の職業が促進要因として、「自営」をはじめ「労務」、「事務」などの職業が抑制要因として作用している。さらには、「父親のしつけ」が強い規定力をもっており、父親のしつけがきびしいものほどこの側面の成熟が高まる傾向がある。

以上の結果を総合すると、男子の場合、1年生においても3年生においても「父の職業」が強い影響要因となっているが、これは、「父の職業」そのものが情報提供的機能をもっていることによ

るものではないかと推察される。この他、1年生では「父の学歴階層」、3年生では「父のしつけ」といった項目内容の違いは別として、父親に関する要因が強い作用を及ぼしている。このことは将来の職業選択をはじめ、職業面の子供の自律に父親の生き方、態度などが深くかかわっているものと考えられ興味もたれる。また、最近、勤労体験をはじめとする啓発的経験の促進の重視が叫ばれているが、男子中学3年生で、職業的進路自律度の規定要因として、これが第1位であったことは注目される点である。

〈女子〉

男子と同様の手続きで、〈表8〉をもとに女子の職業的進路自律度への影響要因分析結果をみることにする。

〈表8〉 職業的進路自律度の影響要因分析結果 (女子)

群	アイテム	カテゴリ	1年		3年	
			ベクトル(×10)	偏相関係数	ベクトル(×10)	偏相関係数
心	希望学歴	1中等学歴	488	.2958	482	.1912
		2高等学歴	-381	-.05	-298	-.10
	希望職業	2有	810	.8081	565	-.4190
		2無	-548	-.05	-1069	-.1
	勤学態度	1教養型	-891	-.2628	-428	-.2586
		2興味型	767	.08	614	.07
		3いやいや型	-810	-.08	1181	-.08
		4無性型	884	.08	62	.08
	個人的労働観(本人)	1社会的貢献	-274	-.1817	-89	-.8818
		2経済的	205	.20	-567	.08
3自己実現		-82	-.08	698	-.08	
4社会的地位		-246	-.08	894	-.08	
個人的労働観(父)	1社会的貢献	-574	-.2527	-192	-.0607	
	2経済的	-840	-.10	-18	-.21	
	3自己実現	285	.28	228	-.08	
	4社会的地位	-169	-.08	-105	-.08	
しつけ(父)	1きびしい	-480	-.1920	-72	-.0481	
	2優しい	198	.18	62	-.22	
	3あまい	-220	-.22	-188	-.18	
しつけ(母)	1きびしい	-822	-.1848	-224	-.1521	
	2優しい	174	.14	161	-.12	
	3あまい	-675	-.68	-889	-.88	
デモグラフィック要因	父の職業	1事務	-277	-.2398	811	-.2768
		2専門・技術	586	.11	-1920	.05
		3管理	165	-.08	-250	-.08
		4販売・サービス	792	.84	841	-.84
		5自由業	-219	-.11	11	-.11
		6日雇	-46	-.22	227	-.22
		7保安	-890	-.1908	597	-.1908
		8その他	525	.59	597	-.59
母の職業	1無職	108	-.0565	-28	-.0101	
	2有	-57	-.28	10	-.28	
父の学歴階層	1初等学歴	722	.8994	-680	-.4088	
	2中等学歴	20	.08	-885	.02	
	3高等学歴	-1468	-.1588	1588	-.1588	
	4その他	-159	-.50	-50	-.50	
母の学歴階層	1初等学歴	-597	-.2594	-84	-.1488	
	2中等学歴	854	.08	188	-.18	
	3高等学歴	818	-.54	-54	-.54	
	4その他	-254	-.216	216	-.216	
出生順位	1独子	1180	-.4408	1158	-.2198	
	2長子	854	.11	-226	.08	
	3中間子・末子	-1078	-.84	848	-.84	
国語	1上位	858	-.1841	176	-.2785	
	2中位	-228	-.15	-808	.04	
	3下位	221	.1225	1225	-.1225	
数学	1上位	490	-.1861	280	-.1818	
	2中位	-174	-.14	184	.16	
	3下位	88	-.290	-290	-.290	
社会	1上位	-557	-.4886	-174	-.0979	
	2中位	-786	-.02	165	-.18	
	3下位	221	-.168	168	-.168	
理科	1上位	-108	-.0408	-685	-.1407	
	2中位	25	-.08	-88	-.08	
	3下位	47	.227	227	-.227	
英語	1上位	484	-.2725	180	-.2724	
	2中位	-150	-.07	898	.06	
	3下位	-806	-.878	878	-.878	
音楽	1上位	326	-.1541	506	-.2465	
	2中位	-27	-.18	-28	.08	
	3下位	-817	-.1061	-1061	-.1061	
保健体育	1上位	288	-.2195	-178	-.0612	
	2中位	158	-.12	5	.20	
	3下位	-527	-.185	185	-.185	

美術	1上位	-77	-.1761	108	-.0880
	2中位	-804	.16	7	.28
技術家庭	1上位	-248	-.971	-164	-.0770
	2中位	-85	-.22	-48	.19
生活時間	10~1時間	560	-.8898	-481	-.1695
	21~2時間	-242	.04	228	.11
	32時間以上	-795	-.48	-48	-.48
ラジオ	10~1時間	41	-.1261	-125	-.1264
	21~2時間	84	.21	298	.19
	32時間以上	-408	-.868	868	-.868
手伝い	1よくする	882	-.1680	-801	-.1417
	2ときどきする	-158	.19	25	.14
	3ほとんどしない	257	-.502	502	-.502
重相関係数			.7416		.6866

(注) ( )内の数値は影響力の順位

1年生では、デモグラフィック要因のうちの「出生順位」が職業的進路自律度に対して最も強い要因になっており、「独子」、「長子」が高める方向に、「中間子・末子」が低める要因になっている。これは、親や周囲の将来に対する期待の差や、こうした期待を自己の置かれた立場において、いかに認識するかなどの違いによって生ずるものと考えられる。これに次いで第2位は、学業成績のうちの「社会」である。教科のなかでも社会科は、直接、仕事や職業と関連する単元があったり、間接的にも職業情動的な機能を有する内容も多いので、このように職業的進路自律度の強い規定要因として抽出される点は理解できるのであるが、この教科成績が下位のものほど成熟が高まる点については理解が難しい。さらに規定力の第3位は、「父の学歴階層」で「初等学歴」、「中等学歴」が促進する方向に、「高等学歴」が抑制する方向に働いている。

これに対し、3年生では、「希望職業」の有無がこの側面の成熟に最も強い影響を持っており、「有」を高める方向に、「無」を低める方向に作用している。職業的進路自律度の3年生女子における規定力第2位は、「父の学歴階層」で、1年生の場合とは逆に、父の学歴が高い程、成熟を高めている。次いで第3位は、「本人の労働観」で「経済」重視の労働観は成熟を低める方向に、「社会的貢献」、「自己実現」、「社会的地位」重視の労働観が促進要因として影響を与えている。なかでも「自己実現」重視の労働観がベクトル値からすると最も強い促進要因である点は注目される。

これらの点を見ると、女子の職業的進路自律度には、男子同様、「父親の学歴階層」など父親の影響が強く働いているものの、このような本人をめぐる周囲の影響よりもむしろ本人自身の内面的要因、例えば希望職業の有無や、本人の労働観が

強く作用している。特にこの傾向は1年生より3年生の方に強くなっている。

(2) 職業的進路計画度への影響要因

〈男子〉

将来の職業につくまでの時間的展望をはじめ、計画度の成熟は一体どのような要因によって規定されているのであろうか。まず男子の場合から〈表9〉をもとに考察する。

〈表9〉 職業的進路計画度の影響要因分析結果 (男子)

群	アイテム	カテゴリー	1 年		3 年	
			ベクトル(×10 <sup>-1</sup> )	偏相関係数	ベクトル(×10 <sup>-1</sup> )	偏相関係数
希望学歴	1	中等学歴	-152	-0.546	760	.2142
	2	高等学歴	85	(28)	-882	(9)
希望職業	1	有	1500	.7067	1185	.6606
	2	無	-2552	(1)	-1805	(11)
勉学態度	1	興味型	266	.2057	448	.8266
	2	興味型	-815	(8)	452	(8)
	3	いやいや型	608		-179	
	4	惰性型	-1242		-2082	
	5	成績型	45		419	
個人的労働観(本人)	1	社会的貢献	-942	-.2704	-118	-.2453
	2	経済	-148	(4)	-87	(6)
	3	自己実現	711		108	
	4	社会的地位	590		1453	
個人的労働観(父)	1	社会的貢献	648	-.2545	-505	-.1579
	2	経済	149	(5)	204	(14)
	3	自己実現	-665		-784	
	4	社会的地位	-1182		98	
しつけ(父)	1	きびしい	-188	-.1717	212	.0905
	2	適	91	(10)	6	(17)
	3	あまい	1038		-402	
しつけ(母)	1	きびしい	211	-.1038	232	-.0782
	2	適	5	(19)	-129	(19)
	3	あまい	-654		3	
父の職業	1	専門・技術	-545	-.8645	-132	-.2885
	2	管理	1242		916	(5)
	3	販売・サービス	-978		-185	
	4	労働	407		-779	
	5	専業主婦	-28		780	
	6	専業主婦	-3879		1352	
	7	その他	698		-109	
	8	その他	-829		-579	
母の職業	1	無職	-158	-.1151	-190	-.1588
	2	有職	78	(15)	419	(13)
父の学歴	1	初等学歴	29	-.0801	112	-.2812
	2	中等学歴	177	(21)	419	(8)
	3	高等学歴	-796		-864	
	4	その他	796		818	
母の学歴	1	初等学歴	-189	-.0889	287	-.2111
	2	中等学歴	8	(20)	44	(10)
	3	高等学歴	265		-100	
	4	その他	644		-2037	
出生順位	1	独生子	-277	-.0657	-148	-.0971
	2	長子	99	(22)	-118	(16)
	3	中子・末子	-137		803	
国語	1	上位	196	-.1937	217	-.0466
	2	中位	410	(9)	38	(28)
	3	下位	-690		-185	
	1	上位	585	-.1194	643	-.1321
	2	中位	56	(14)	91	(15)
	3	下位	-195		-347	
	1	上位	482	-.1526	-298	-.0649
	2	中位	887	(12)	78	(22)
	3	下位	27		256	
理科	1	上位	-822	-.8170	881	-.0889
	2	中位	-70	(8)	68	(18)
	3	下位	1625		-886	
英語	1	上位	811	-.1064	84	-.0773
	2	中位	-159	(18)	230	(20)
	3	下位	-306		-253	
音楽	1	上位	88	-.0165	188	-.2839
	2	中位	-88	(24)	-657	(4)
	3	下位	81		1050	
保健体育	1	上位	288	-.1098	999	-.2025
	2	中位	26	(17)	196	(12)
	3	下位	-429		258	
美術	1	上位	812	-.1800	377	-.0744
	2	中位	-48	(18)	-100	(21)
	3	下位	171		84	
技術家庭	1	上位	380	-.2812	1448	-.8570
	2	中位	-590	(7)	548	(2)
	3	下位	583		-1697	
生活時間	1	0~1時間	-110	-.1121	110	-.0250
	2	1~2時間	-109	(16)	-27	(24)
	3	2時間以上	491		-28	
	1	0~1時間	-94	-.1602	-266	-.2067
ラジオ	2	1~2時間	779	(11)	298	(11)
	3	2時間以上	-244		1068	
	1	よくする	1022	-.2481	1447	-.2448
手伝い	2	ときどきする	-825	(6)	-243	(7)
	3	ほとんどしない	-69		61	
偏相関係数			-.7804		-.7702	

(注) ( )内の数値は影響力の順位

規定力が最も強い要因は、「希望職業」で「有」が成熟を高める方向に、「無」が成熟を低める方向に作用している。これに次いで規定力の強い要因は、「父の職業」で「管理」、「労務」が促進要因として、「販売・サービス」の他4つの職業（「事務」、「専門・技術」、「自営」）が抑制要因として職業的進路計画度の成熟に影響を及ぼしている。このように父親の職業が職業的進路計画度の成熟に大きな影響を及ぼしているのは、やはり、父親の職業が1つの職業情動的機能をもって子供の職業に対する時間的展望や計画度の成熟にかかわっていることによるものではないかと推察される。さらに、規定力が三番目に大きいのは、「学業成績」のうちの「理科」であるが、作用の方向が「上位」や「中位」がマイナスの方向であるのに「下位」がプラスの方向であり、解釈に困難を感じる。

一方、3年生男子の職業的進路計画度の影響要因分析結果を同表でみると、1年生同様「希望職業」の有無が最も強い規定要因になっている。なかでも、希望職業「有」がこの側面の成熟を高める方向に、「無」が低める方向に作用している。規定力の第2位は、「学業成績」のうちの「技術・家庭」である。この教授は、進路指導でいう啓発的経験の直接体験の機会としてきわめて大きな意味があるのであるが、職業的進路計画度の成熟に深くかかわっている点は注目に値しよう。とくにこの成績が上位のものほど成熟が高くなっている。最後に、第3位の要因は、「勉学態度」で「興味型」、「成績型」、「教養型」が促進要因として、「惰性型」、「いやいや型」が抑制要因として働いている。

職業的進路計画度の促進・抑制要因として、1年生では、「父の職業」(2位)や「理科」(3位)が、また3年生では「技術・家庭」(2位)や「勉学態度」(3位)が強い影響力を持っていることは事実である。つまり、「学業成績」や「デモグラフィック要因」さらには「心理強要因」など幅広い要因の影響でこの側面の成熟が達成されているのである。しかし、なかでも1年生、3年生いずれにあっても男子の職業的進路計画度の成熟に「職業希望」の有無が最も強くかかわり、職

業希望が「有」とするものの成熟が高いことは今後の進路指導展開上、極めて大きな示唆を与えているものと考えられる。

〈女子〉

次に、〈表10〉をもとに女子の職業的進路計画度の規定要因を検討する。

〈表10〉職業的進路計画度の影響要因分析結果 (女子)

群	アイテム	カテゴリー	1 年		3 年	
			ベクトル(×10 <sup>-3</sup> )	重相関係数	ベクトル(×10 <sup>-3</sup> )	重相関係数
心理	希望学歴	1 中等学歴	-	.0658 (24)	729	.2787 (6)
		2 高等学歴	-		-494	
	希望職業	1 有	884	.5786 (1)	1888	-.7027 (11)
		2 無	-1561		-2570	
	勉学態度	1 教養型	-780	.8508 (4)	-498	-.8874 (8)
		2 興味型	482		1174	
		3 いやいや型	1079		-1894	
		4 惰性的型	-698		-859	
		5 成績型	515		888	
	個人的 母観 (本人)	1 社会的貢献	-222	-1.002 (18)	188	-.2890 (5)
2 経済		89		-560		
3 自己実現		-50		658		
4 社会的地位		450		538		
個人的 労働観 (父)	1 社会的貢献	277	.8168 (7)	-588	-.0898 (19)	
	2 経済	-277		555		
	3 自己実現	-1592		75		
	4 社会的地位	-81		-816		
しつけ (父)	1 きちしい	42	-.0408 (22)	-78	-.0291 (24)	
	2 ゆるい	28		48		
しつけ (母)	1 きちしい	-184	-.1998 (14)	-880	-.2088 (8)	
	2 ゆるい	248		266		
デモ グラフ ィック 要因	父の職業	1 専業主婦	626	.8087 (10)	-124	-.1662 (12)
		2 専門技術	565		242	
		3 管理	16		185	
		4 販売サービス	-401		-756	
		5 自営業	-764		-128	
		6 日雇	-184		488	
		7 失業	-794		460	
		8 その他	1218		149	
母の職業	1 専業主婦	-898	.8588 (2)	107	-.0555 (28)	
	2 管理	489		-88		
	3 専門技術	638	.8510 (6)	140	-.1680 (18)	
	4 その他	227		868		
父の 学歴階層	1 初等学歴	-764	.8820 (5)	-807	-.1492 (14)	
	2 中等学歴	495		816		
	3 高等学歴	554		-276		
	4 その他	-1115		45		
出生順位	1 独生子	1048	-.2118 (18)	501	-.0881 (20)	
	2 長子	115		149		
	3 間子・末子	-482		-149		
学業	国語	1 上位	86	-.0956 (19)	-291	-.2918 (4)
		2 中位	-186		287	
		3 下位	358		674	
	数学	1 上位	1185	-.2974 (11)	891	-.1809 (11)
		2 中位	489		-266	
		3 下位	-554		85	
	社会	1 上位	608	-.1551 (16)	-889	-.1167 (15)
		2 中位	-277		171	
		3 下位	67		89	
	理科	1 上位	78	-.0242 (28)	155	-.0685 (21)
		2 中位	-87		105	
		3 下位	2		-158	
英語	1 上位	-118	.0908 (21)	153	-.0425 (22)	
	2 中位	187		-58		
	3 下位	-142		51		
音楽	1 上位	-287	.8149 (8)	754	-.2598 (7)	
	2 中位	-586		-199		
	3 下位	787		-898		
保健体育	1 上位	-541	-.3076 (9)	-353	-.0940 (18)	
	2 中位	618		108		
	3 下位	-707		88		
美術	1 上位	-1417	.8292 (6)	1728	-.8990 (2)	
	2 中位	601		-869		
	3 下位	-278		-804		
技術家庭	1 上位	-197	.0942 (20)	-616	-.1868 (10)	
	2 中位	42		30		
	3 下位	424		768		
生活時間	1 2～1時間	-268	-.2912 (12)	851	-.1105 (16)	
	2 1～2時間	-186		1		
	3 2時間以上	1226		-281		
ラジオ	1 0～1時間	108	-.1489 (17)	-178	-.1808 (9)	
	2 1～2時間	-662		809		
	3 2時間以上	-478		104		
手伝い	1 全くする	449	-.1858 (15)	297	-.1029 (17)	
	2 ほとんどする	88		-185		
	3 ほとんどしない	-574		15		
重相関係数			.8281	.8007		

(注) ( )内の数値は影響力の順位

表にみるように1年生の重相関係数は.8281, 3年生の重相関係数は.8007とかなり高い値になっており、ともにかなり強い要因の判別力を期

待できる。

さて、女子1年生の職業的進路計画度の影響要因としてまず挙げられるのは「希望職業」で、「有」が、この側面の成熟を高める方向に、「無」が低める方向に作用している。第2位は「母の職業」で、「有職」が促進要因として、「無職」が抑制要因となっている。これは父親の職業と同様、同性の母親が職業に就いていることが、職業情報の一つとして機能し、この側面の成熟を高めるものと推察される。「母の職業」に次いで、強く影響を及ぼしている要因は、「父の学歴階層」で「初等学歴」、「中等学歴」が職業的進路計画度を高めているのに対し、「高等学歴」は、低める方向に作用している。

他方3年生にあつては、やはり1年生同様、規定力の第1位は「希望職業」の有無で、「有」が成熟を促進し、「無」が抑制している。次いで第2位は、「美術」で、この教科の成績の「上位」がプラス方向に、「中位」および「下位」がマイナスの方向に作用している。なお、この教科も技術・家庭などとならび、進路指導における啓発的経験としての色彩の濃い教科であり注目される。さらに、「勉学態度」が強い規定力を持っており、「興味型」や「成績型」が高める働きをし、「いやいや型」、「惰性的型」、「教養型」など、消極的な勉学態度が低める働きをしている。

これら女子の職業的進路計画度の影響要因分析結果をまとめると、何よりもまず、男子の結果と同様、「希望職業」の有無が規定力の第1位となっている点が注目される。進路指導は、将来の個人の生き方の指導とも換言でき、個人が将来のさまざまな生活側面について計画をもち、その関連で進路選択を行なうような能力あるいは、進路観をもたせることは重大なことであるが、このような側面の成熟に「希望職業」の有無が強くかかわっていることからすれば、その職業に将来、実際就くか否かは別として、人生目標である希望職業をもたせる指導を進路指導は重視していかなければならないと考えられる。この他1年生では、デモグラフィック要因が強く影響しているが、3年生では学業成績や勉学態度などが深くかかわっている。これは、換言すれば、積極的な勉学態度は、

将来就きたいとする職業や生きる目的があること、およびこの達成のための時間的展望などがあることによって形成されるとも言える。

(3) 職業的進路関心度への影響要因

〈男子〉

〈表11〉は、男子の積極的進路関心度への影響要因分析結果をまとめたものである。

〈表11〉 職業的進路関心度の影響要因分析結果 (男子)

アイテム	カテゴリー	1 年		3 年				
		ベクトル(×10 <sup>-3</sup> )	偏相関係数	ベクトル(×10 <sup>-3</sup> )	偏相関係数			
心理的	希望学歴	1 中等学歴 2 高等学歴	-.291 -.218	.1211 (18)	-.84 (22)	-.0990 (22)		
	希望職業	1 有 2 無	-.115 -.1904	.5442 (1)	4.85 -.691	2.818 (6)		
	勉学態度	1 教養型 2 興味型 3 いやいや型 4 情性型	202 -117 911 -411	-.1225 (12)	572 -608 -698 -1608	2.902 (1)		
	個人的労働観(本人)	1 社会的貢献 2 経済 3 自己実現 4 社会的地位	21 -98 379 -484	-.1169 (15)	251 46 -867 319	-.0986 (17)		
	個人的労働観(父)	1 社会的現実 2 経済 3 自己実現 4 社会的地位	292 98 188 -248	-.0899 (21)	381 -114 150 -12	-.0766 (19)		
	しつけ(父)	1 きびしい 2 普通 3 あまい	548 824 -715	-.2012 (6)	454 -88 -588	1.861 (18)		
	しつけ(母)	1 きびしい 2 普通 3 あまい	12 116 -380	-.1868 (10)	278 -28 -1205	1.414 (11)		
	デモクラ	父の職業	1 事務 2 専門・技術 3 管理 4 販売・サービス 5 労働者 6 自営業 7 不安 8 その他	-.968 117 799 -400 -825 -827 -891 472	-.2916 (3)	279 -521 -224 -527 -522 956 3829 -1244	-.2572 (4)	
		母の職業	1 無職 2 有	-.870 177	-.1202 (14)	2796 261	-.1949 (8)	
		父の学歴階層	1 初等学歴 2 中等学歴 3 高等学歴 4 その他	146 -28 -121 -118	-.0440 (28)	87 -440 -154 2794	-.2790 (2)	
母の学歴階層		1 初等学歴 2 中等学歴 3 高等学歴 4 その他	185 248 -846 -1060	-.1408 (9)	426 149 -852 -847	-.2768 (8)		
出生順位		1 独子 2 長子 3 中間子 4 末子	478 -180 257	-.1129 (16)	540 18 -125	-.0547 (21)		
学業		国語	1 上位 2 中位 3 下位	418 428 -824	-.2188 (4)	1092 -6 -521	1.679 (10)	
		数学	1 上位 2 中位 3 下位	1707 -96 -649	-.9144 (2)	140 -121 85	-.0489 (22)	
		社会	1 上位 2 中位 3 下位	824 295 16	-.1022 (17)	469 -265 -86	1.052 (16)	
	理科	1 上位 2 中位 3 下位	139 -179 601	-.1286 (11)	698 101 885	1.128 (15)		
	英語	1 上位 2 中位 3 下位	185 276 -153	-.0958 (19)	492 -159 510	1.295 (14)		
	音楽	1 上位 2 中位 3 下位	176 44 9	-.0295 (24)	1415 -117 -200	1.720 (9)		
	健康	保健体育	1 上位 2 中位 3 下位	867 168 149	-.1015 (18)	178 70 -278	-.0570 (20)	
		美術	1 上位 2 中位 3 下位	516 171 79	-.0989 (20)	476 -1 842	-.0848 (18)	
			技術家庭	1 上位 2 中位 3 下位	546 -477 294	-.1687 (7)	221 63 -198	-.0428 (28)
	生活時間			テレビ	1 0~1時間 2 1~2時間 3 2時間以上	179 -219 -148	-.0859 (22)	618 576 -218
		ラジオ		1 0~1時間 2 1~2時間 3 2時間以上	194 580 848	-.1421 (8)	826 520 1041	-.2087 (6)
		手強い	1 よくする 2 とどきする 3 ほとんどしない	116 424 -618	-.2069 (6)	859 18 -287	1.407 (12)	
重相関係数						-.6615 -.6190		

(注) ( )内の数値は影響力の順位

1年生では、職業的進路関心度の成熟に、「希望職業」の有無が最も強く作用し、「有」が促進要因として、「無」が抑制要因として働いている。次いで「数学」が強い規定要因となっており、この成績の「上位」が成熟を高める方向に、「中位」および「下位」が低める方向に作用している。さらに規定要因の第3位は「父の職業」で、「管理」、「労務」、「専門・技術」がプラスの方向に、「事務」、「販売・サービス」、「自営」がマイナスの方向に働いている。

一方、3年生の結果では、「勉学態度」が最も影響の強い要因となっており、「教養型」、「成績型」など積極的な勉学態度が、職業的進路関心度の成熟を高めている。これに対して、「情性型」、「いやいや型」、「興味型」など概して消極的な勉学態度が、この側面の成熟を低めている。規定力の第2位、第3位はともに「デモグラフィック要因」で、前者が「父の学歴階層」、後者が「母の学歴階層」である。両者とも、高い学歴よりも初等の学歴の方が、職業的進路関心度の成熟を促進する方向に作用している。

以上のように、男子の職業的進路関心度の影響要因を学年別にみると、この側面の成熟には、いずれの学年にあっても、多様な要因がかかわっており、一言で要約することは難しい。しかし、なかでも、デモグラフィック要因(1年生「父の職業」3位、3年生「父の学歴階層」2位、「母の学歴階層」3位)がかなりのウエイトでこの側面の成熟を規定していることがわかった。これらの要因が進路情報的機能をもつ要因であることを考えれば、進路指導の展開にあたって十分な進路情報の提供が望まれるのである。

〈女子〉

最後に、女子の職業的進路関心度についての要因分析結果を〈表12〉をもとに検討する。

〈表12〉 職業的進路関心度の影響要因分析結果 (女子)

群	アイテム	カテゴリー	1 年		3 年	
			ベクトル(×10 <sup>-3</sup> )	偏相関係数	ベクトル(×10 <sup>-3</sup> )	偏相関係数
心理	希望学歴	1 中等学歴 2 高等学歴	-.85 67	.0867 (28)	1.27 -86	-.0426 (22)
	希望職業	1 有 2 無	-.455 -.808	-.8128 (6)	558 -1076	-.8228 (1)
	勉学態度	1 教養型	-1182	-.4628	-46	-.2689
		2 興味型	2851	(1)	-462	(2)
		3 いやいや型	1562		-1104	
4 情性型		-254		-594		
5 成業型	278		240			

要因	個人的 労働観 (本人)	1社会的貢献	87	.2242	446	.1490
		2経済	-248	(9)	-306	(10)
		3自己実現	644		164	
		4社会的地位	-884		981	
	個人的 労働観 (父)	1社会的貢献	225	-.1862	-296	-.1255
		2経済	282	(12)	-87	(16)
		3自己実現	-876		275	
		4社会的地位	-708		1854	
	しつけ (父)	1きびしい	387	-.1064	-121	-.1415
		2普通	-100	(80)	-212	(12)
		3あまい	-166		709	
		4きびしい	-1179	-.4156	-5	-.1262
しつけ (母)	1きびしい	620	(2)	112	(15)	
	2普通	-2197		-1072		
	3あまい	-51	-.8188	558	-.1868	
	4きびしい	1716	(5)	882	(5)	
デモ グラフ	父の職業	1事務	-219		-276	
		2専門・技術	686		95	
		3経営・管理	-598		-458	
		4販売・サービス	-80		76	
		5労働	-910		988	
		6その他	1956		267	
		7無職	-767	-.2828	-476	-.1268
		8有職	420	(7)	168	(14)
ファ ック	父の学歴	1初等学歴	441	-.1747	460	-.1658
		2中等学歴	81	(14)	-4	(6)
		3高等学歴	-798		-188	
		4その他	-81		-898	
要因	母の学歴	1初等学歴	-728	-.2682	79	-.0561
		2中等学歴	446	(8)	-118	(22)
		3高等学歴	811		214	
		4その他	-1877		-117	
出生順	1独子	82	-.1492	260	-.1051	
	2長子	197	(16)	-154	(17)	
	3中間子・末子	-492		848		
業	国語	1上位	-485	-.1166	744	-.1548
		2中位	125	(19)	-89	(8)
		3下位	169		-882	
	数学	1上位	2484	-.8888	1126	-.1627
		2中位	508	(8)	-159	(9)
		3下位	-71		102	
	社会	1上位	-89	-.1807	496	-.1885
		2中位	-466	(18)	-280	(18)
		3下位	855		84	
	理科	1上位	161	-.1255	-284	-.0857
		2中位	208	(17)	-176	(19)
		3下位	-440		257	
英語	1上位	-272	-.2006	-1199	-.2615	
	2中位	495	(10)	214	(8)	
	3下位	-486		759		
音楽	1上位	108	-.0841	187	-.2086	
	2中位	-85	(24)	254	(2)	
	3下位	-57		-1420		
職	1上位	-957	-.8484	-161	-.0882	
	2中位	790	(4)	-79	(20)	
	3下位	-697		424		
美術	1上位	-46	-.0428	-28	-.1600	
	2中位	108	(22)	-289	(7)	
	3下位	-80		919		
技術家庭	1上位	570	-.1728	728	-.1482	
	2中位	-278	(15)	-170	(11)	
	3下位	448		-180		
生	テレビ	10~1時間	298	-.1241	91	-.0489
		21~2時間	-185	(18)	-102	(28)
		32時間以上	-249		118	
活	ラジオ	10~1時間	-178	-.1998	-40	-.0748
		21~2時間	-985	(11)	826	(21)
		32時間以上	-797		-264	
間	手伝い	1よくする	-267	-.0722	258	-.0927
		2とどまらず	98	(21)	-164	(18)
		3ほとんどしない	-102		228	
重相関係数			.7296		.6225	

〔注〕( )内の数値は影響力の順位

1年生において、この側面の成熟に最も強い影響をもっている要因は、「勉学態度」で「興味型」、「いやいや型」、「成績型」が成熟を高める方向に作用し、「教養型」や「惰性型」が低める方向に作用しているが、「いやいや型」がなぜ成熟を高め、「教養型」がなぜ成熟を低めるかといった点については解釈が難しい。次に強い影響要因は、「母のしつけ」で「普通」が促進要因として、「あまい」および「きびしい」が抑制要因となっている。しかし、この場合も作用の方向が不連続であり、何故このような不連続性が生ずるかについては今後さらに検討をしなければならないと考える。さらに規定力の第3位は、「数学」で「上位」が職業的進路関心度を高め、「中位」、「下位」が低めている。

次に3年生の影響要因についてみると、規定力

の第1位は、「希望職業」の有無で「有」が成熟を促進し、「無」が抑制している。規定力の第2位は、勉学態度で「成績型」が成熟を促進している以外は、全て(「いやいや型」、「惰性型」、「興味型」、「教養型」)がマイナスの方向に作用している。次いで規定力の第3位は、「英語」で「下位」および「中位」がこの職業的進路関心度の成熟を促がし、「上位」が抑制している。

このように女子の職業的関心度の影響要因をみると、男子の場合同様、この側面の成熟にかかわっている要因は多岐に及んでいる。しかし、女子にあっては、作用の方向に若干の不安定さはあるものの1年生、3年生いずれにあっては「勉学態度」が強い規定力を持っていることが明らかになった(男子においても3年生では第1位の規定要因であった)。こうした点を考えると、勉学態度は、単に教育的な進路成熟にのみ影響を持つにとどまらず、職業的な進路成熟にも強い影響力をもっており、この観点からすると、今後、進路指導の展開にあたっては、望ましい勉学観や勉学態度を育てる指導も重要であると考えられる。

## 要約

中学生の職業的進路態度成熟度(自律度、計画度、関心度)の様相およびその影響要因について、調査結果をもとに検討してきた。

これまでの検討結果は、次のように要約できる。

- ① 職業的進路自律度、職業的進路計画度、職業的進路関心度、いずれの側面の成熟も、男子では学年の進行に伴う顕著な成熟の促進はみられないが、女子では学年の進行に伴って成熟の促進がみられる。一般的傾向として、男子よりも女子の方が、職業的進路態度の成熟は進んでいるといえる。
- ② 職業的進路自律度に対しては、男女いずれも、総じて、父親の影響力が大きい。ただし、1年生では、父親の職業・学歴といった生徒にとって変更しがたい要因(デモグラフィック要因)が影響力をもっていたのに対し、3年生では、父親のしつけに対する認知といった心理的・内面的要因の影響力が強くなってきている。また、3年生になると、生徒本人

が働くことをどのように把握しているかといった労働観や手伝いなど勤労体験の程度が、この側面の成熟を強く規定するようになってきている。

- ③ 職業的進路計画度に対しては、男女いずれの学年にあっても、希望職業の有無が最も強い影響力をもっている。また、1年生では、親の職業が強く影響しているのに対し、3年生では、勉学にとりくむ姿勢が強く影響している。特に、勉学に対する積極的姿勢は、この側面の成熟を高め、逆に消極的姿勢は成熟を低めている。
- ④ 職業的進路関心度に対しては、勉学に取りくむ姿勢や希望職業の有無といった生徒本人の心理的・内面的要因の影響が大きい。特に、その傾向は、1年生よりも3年生に、男子よりも女子に強い。

本研究の結果を要約すれば、以上の4点に整理できよう。職業的進路態度の成熟を促進するためには、あらゆる機会や場面を通して、望ましい勉学観・労働観の育成、積極的な勤労体験学習、適切な進路情報の提供などが大切であると考えられる。

今回の研究は、進路社会化に関する研究の手がかりを得ようとするものであるが、研究を進めるなかで、今後次のような課題を解決しなければならないことを痛感した。

- ① 本報告は、中都市の1公立中学校生徒のみを対象とした調査結果である。したがって、今後は、地域性なども考慮して、対象者を増やし、結果の検討を行う必要がある。
- ② 職業的進路態度成熟度の影響要因の分析では、説明変数として4群24アイテムを採用したが、結果の解釈が仮説から説明できないものが幾つかみられた。したがって、採用する説明変数について、また、アイテムをカテゴリーに細分化する基準について検討することが必要である。さらに、被説明変数である職業的進路態度尺度についても、再度詳細な尺度検討を行うことが必要である。

## 参考文献

- (1)文部省, 1979, 中学校・高等学校進路指導の手引——教育課程編, 日本進路指導協会, p.18。
- (2)竹内登規夫・坂柳恒夫, 1984, 中学生の進路社会化に関する研究(Ⅰ)——教育的進路態度成熟度の影響要因を中心にして, 愛知教育大学研究報告第33輯(教育科学), pp.179—201。
- (3)竹内登規夫・坂柳恒夫, 1983, 進路成熟態度尺度(CMAS—2)の作成とその分析, 愛知教育大学研究報告第32輯(教育科学), pp.193—208。